

令和 7年度 学 校 評 価 自 己 評 価 表

1 経営理念(ミッション・ビジョン)

| | |
|----------------|--|
| I 教育に係るマネジメント | (1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)児童の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプル イズ ベストが定着した学校 <高い質> |
| II 組織に係るマネジメント | (1)ミドルリーダーが運営する企画委員会 (2)ミドルアップダウンによる組織運営・管理 (3)DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントの実施 |

2 めざす子供像

柔軟に考える かしい子
挑戦する たくましい子
集中する さわやかな子

「3自」大作戦！！

○「自」由な発想からスタート！※安心して許せる関係づくり
○「自」信をもって挑戦！※失敗は、次への学び
○「自」分の言動で表現しよう！※自己決定・自己表現

3 経営目標・評価項目・評価・達成状況

評価基準 達成度＝達成値÷目標値×100

A(達成度100%以上) B(達成度100～80%) C(達成度80～60%) D(達成度60%未満)

| | 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | |
|---------|---|--|----|---|---|-----------------------------|--------------------------------|------------------------|--------------------------------|----|--|--|
| | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 重点 | 目標達成のための手だて | 評価指標 | 目標数値 | 7月 | 1月 | 達成度 | 評価 | 短期経営目標の達成状況 | 改善方策 |
| | | | | | | | 達成値 | 達成値 | | | | |
| 確かな学力 | 授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り、振り返り、活用しようとする力を育てる。 | 国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る | 1 | ・「思考の方法」を活用した考えの交流を充実させる授業作りをする。 | 国語の単元末・学期末(思考・判断・表現)の得点が期待平均点を上回る児童の割合 標準学力テスト(国語)の正答率が、全国比で昨年度に比較して数値が伸びている児童もしくは、全国比で110以上の正答率を獲得している児童の割合 | 85% | 69.9% | % | 82.2% | B | 1学期における国語の単元末・学期末テスト(思考・判断・表現)の得点が期待平均点を上回る児童の割合は、69.9%で、目標を達成できなかった。児童一人一人の結果を見てみると、一度しか期待平均点を上回っていない児童、一度も期待平均点を上回っていない児童が数名いる。1学期の取組の中で、思考の方法の活用、交流活動を意図的に取り入れていくことを周知しきれなかったことが要因の一つであると考える。 | 1学期末に、職員で児童の実態や課題について話し合い、共通認識を図った。2学期からは、教材文と自分の経験をつなげて考えをもつことができるような交流活動を取り入れていく。 思考の方法の活用や交流活動の取り組み状況について、定期的に交流し、指導者の意識を高めていく。 |
| | | | | | 85% | | | | | | | |
| 豊かな心 | 他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。 | 相手意識をもったあいさつ・返事や心の交流が促進される取組を進める 道徳教育等、心が通い合う教育活動を充実する | 2 | ・お手本となるあいさつや返事をしている児童を肯定的評価したり、学級や全校で紹介したりする。 ・委員会が、児童の頑張っているところを評価する取組を実施するなど、児童主体の活動を企画・実行できるようマネジメントしていく。 ・学級の帰りの会で友達のいいところを発表をする時間をとるなど、児童がお互いに良さを認め合える活動を取り入れる。 ・全校児童が関わる活動を取り入れる。 | 児童アンケート「自分から気持ちのよいあいさつ・返事をしていますか」、保護者・教職員アンケート「進んで挨拶をしている」での肯定的回答の割合 | 児童100% 保護者90% 教職員100% | 児童85.3% 保護者95.9% 教職員100% | 児童…% 保護者…% | 児童85.3% 保護者106% 教職員100% | B | 児童の肯定的回答の割合は85.3%、保護者の肯定的回答の割合は95.9%、教職員は100%であった。保護者と教職員は目標を達成したが児童は目標を達成することはできなかった。 児童会本部が毎朝玄関前に立ち、あいさつ運動を実施した。あいさつのよかった児童を放送で紹介し、気持ちのよいあいさつをする意欲を高めた。教職員も挨拶や返事がよかった児童にその都度肯定的な声掛けを行った。 | 教職員があいさつがよいと思った児童を全体に紹介していく取組を進める。その際、「大きな声」「元気な声」といった視点だけではなく、「心がこもっている」「目を合わせている」など様々な視点でよいところを見つけたり、「以前より声が出ている」など、一人一人の成長を認めたりしていく。 あいさつをすることの意味やよさについて考えさせ、あいさつをする意欲を高める。 |
| | | | | | 「クラスの中にあなたの気持ちをわかってくれる人がいますか。」のアンケートで肯定的回答をする児童の割合 | 100% | 93% | % | 93% | B | 一学期に行った児童アンケートの結果は、「クラスの中にあなたの気持ちを分かってくれる人がいますか」では肯定的な回答が93%で目標は達成することはできなかった。「自分にはよいところがある」では85%という結果で目標に到達することができた。帰りの会で発表する時間がなく取り組めていなかったが、児童会が全校児童向けにふわふわ言葉の木を掲示していたり、道徳の授業でいいところを褒め合う取り組みを行って自己肯定感を高めた。 祖父母参観日では、参観者に子どもたちや学級へのメッセージを記入していただき、掲示した。 | 帰りの会だけでなく、道徳の授業や特別活動の時間を使って、互いのよさを認め合う活動を取り入れていくことで自己肯定感を高めたりや互いのよさを認め合ったりすることに繋げていく。 |
| 健やかな体 | 目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる。 | 努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める 生活の基盤となる確かな生活習慣を身に付けさせる | 3 | ・業間体育と体育の授業開始時のサーキットトレーニングに取り組む。取組の成果を視覚化し、評価・指導に活用する。 ・児童が主体となって体力向上の取組を企画、実行できるようマネジメント・評価していく。 ・就寝時刻とメディア時間についての改善を図るために、自分の目標設定ができるようなしかけをし、家庭と連携を図る。 ・「生活チャレンジ」の結果を活用し、教科指導等において、生活習慣の大切さを価値付けた指導を行う。 | 50m走について、年度当初、1学期末、2学期、3学期に計測し、前の記録を更新した児童の割合 | 80% | 51% | % | 64% | C | 年度当初の50m走の記録を1学期末(6月)の記録を更新した児童は51%だった。現状維持を含んだ割合は64%だった。低学年は83%、中学年は30%、高学年は33%だった。学年が進むごとに目標に達しない児童が多かった。休憩時間に比較的外で遊ぶ学年の記録が高く、遊ぶことが少ない学年は低い数値だった。また、高学年を対象とした遊び時間に関するアンケート結果では、3割以上の児童が積極的に遊んでいない結果だった。 | 引き続き業間体育、サーキットトレーニングに取り組む。また、体育委員会主催の業間体育(体を動かす運動遊び)を充実させていくを通して、児童が遊びたいと思える遊びを伝えたり、環境整備をしたりしていく。 また、休憩時間に児童が体を動かす遊びができるよう促していく。 |
| | | | | | 就寝時刻とメディア時間について、自分が設定した目標を守れた児童の割合 | 90% | 78% | % | 87% | B | 就寝時刻では全体的に金曜日に遅くまで起きている児童が多かった。また、高学年では遅くまで起きている児童が固定化してきている。低学年ではおうちの方の声かけ等の協力が関係しているように思う。 メディアの時間は特に週末に守れない児童が多かった。 | 10月の目に関する保健指導で自分の生活チャレンジ週間の結果を振り返り、メディアと健康について考える時間を設ける。 また、3学期には外部講師による「スマホ・ケータイ安全教室」を実施し、メディアコントロール(スマホ・ケータイを正しく安全に使用する)を意識づける。 今後は学期に1回は生活チャレンジ週間を親子読書週間と連携して取組む。 |
| 信頼される学校 | 地域教材・人材の活用で、地域への関心・貢献の意欲を高める 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る。 | 地域教材・人材の活用で、地域への関心・貢献の意欲を高める 一人一人の思いに寄り添い、安心して伸び伸びと力が発揮でき、児童・保護者・教職員が「行きたい」「行かせたい」、教職員が「勤めたい」と思える学校を創る。 | 4 | ・総合的な学習の時間や生活科で、校外学習に行ったりゲストティーチャーから話を聞いたりする。(各学級年5回以上) ・学習したことを発信する機会をつくる。(中・高学年は2回以上発信する) ・教職員も神石について学習し、地域を知る。 ・日々の授業や特別活動等が児童の興味関心を大切にしたものになるよう、内容や教師の働きかけを工夫する。 ・学期に1回、児童アンケートを実施するとともに、個別に話を聞くことで児童の悩みを把握する。また、教職員で情報の共有をする機会(月1回以上)を設ける。 | 児童アンケートで、低学年は「神石のよいところ」を3つ以上、中・高学年は「神石の人・もの・こと」を5つ以上答えた児童の割合 | 100% | 48% | % | 48% | D | 児童アンケートの結果は48%であった。低学年はアンケートへの答え方が分かっていないためか、1つだけかいている児童が多かった。中学年は記入している数は増えているが抽象的な表現でまとめているので、5個に届いていない児童が多い。高学年は、総合的な学習の時間に取り組んでいることが結果に表れてた。 1学期の取り組みで発信まで至っていないこともあり、地域にあるものという意識はあっても「神石のよいところ」という意識は低い。 | アンケートの質問項目を、できるだけたくさんのよさをかくように変更する。 2学期には学習発表会などで地域のよさを発信する場を設定し、児童に「神石のよいところ」に目を向けさせていく。(他校との交流も検討していく) 夏季休業中に職員も神石についての学習を行ったので、児童への指導に生かしていく。(指導者による価値づけ) |
| | | | | | 児童アンケート『通いたいと思いますか』、保護者アンケート「通わせてよかったと思う」、教職員アンケート「勤めたいと思いますか」の肯定的回答の割合 | 100% | 児童92.6% 保護者95.8% 教職員100% | 児童…% 保護者…% 教職員…% | 児童92.6% 保護者95.8% 教職員100% | B | 児童の肯定的回答の割合は92.6%、保護者の肯定的回答の割合は95.8%、教職員は100%であった。児童と保護者の目標は達成することができなかった。 6月と長期休業明けに児童一人一人と面談を行った。また、SCの先生と交流したり面談したりする機会を設け、児童が相談しやすい環境づくりを行った。 各学級では、学級がもっと楽しいものになるよう児童主体の係活動に取り組むことにより、一人一人が活躍できる場になっている。 教職員で情報の共有をする機会を設けることができなかった月があった。 | 否定的な回答をしている児童について教職員で共有するとともに、教職員全体で気にかけてたり声掛けをしたりする。 教師と児童との関係を築くために、積極的に児童と会話したり、児童同士の関係を築くために人間関係づくりを行ったりしていく。 保護者が児童を通わせてよかったと思えるよう、定期的に学校の様子を知らせたり、連絡帳などで、個別に児童の頑張りを伝えたりする。 必ず月一回以上教職員で情報の共有をする機会を設けられるよう、計画をする。 |